慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	事務局だより
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学グローバルCOEプログラム論理と感性の先端的教育研究拠点
Publication year	2010
Jtitle	Newsletter Vol.14, (2010. 12) ,p.8- 8
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002003-00000014-0090

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

研究員紹介

柴田みどり

発話意図の推論過程の検討

2010年4月より非常勤研究員としてお世話になっている柴田みどりと申します。私は言語理解過程の脳内メカニズムについて研究を行っています。中でも、日常のコミュニケーション場面で多用される比喩やアイロニー、間接発話といった発話の理解過程について行動実験や脳機能イメージング(fMRI)を用いた研究を行っています。これらの発話は文脈や状況と、文の持つ文字通りの意味を照らし合わせてみると真であるとはいえませんが、我々は日常、発話の意図を推論しながら意味を理解しています。この推論や理解過程に我々の脳がどのように関与しているかについて研究を進めています。また最近では、これらの発話理解に感情が与える影響についても検討しています。

桃生朋子

第二言語獲得の仕組み

2010年4月よりGCOE言語と認知班の非常勤研究員となりました、桃生（ものう）朋子です。私は第二言語獲得の仕組みを、母語獲得との比較の観点から明確にすることを目指しています。具体的な研究課題は、以下の二つにまとめられます。①母語獲得において仮定される生得的言語知識が、第二言語獲得においても機能するかどうか、②①の答えが「機能する」の場合、生得的言語知識の機能に必要な言語情報は何か。これらの課題は、母語獲得との相違点(例:母語の転移や成功度のばらつき、化石化等）が生じる原因をも明らかにし得る重要な課題である、と考えています。現在は日本語の省略構文(例：「(太郎が二冊の本を読んだ。）花子も__読んだ。」）を取り上げ、日 本で日本語を学ぶ英語母語話者、及び中国語母語和者を被験者とし、研究を進めています。どうぞよろしくお願いいたします。

矢口朱美

イギリス心理学の発展と文学の関係

今年度から非常勤研究員としてお世話になっております、論理・情報班の矢口朱美です。専門は19世紀末から20世紀初めにかけてのイギリス心理学と文学の相互関係です。

世紀転換期は、イギリスにおいて心理学が学問の一分野として独立を果たした時期にあたります。それまでのイギリスを特徴づけた「心」にまつわるさまざまな言説は、モラル概念の構築を基本としていましたが、進化論と神学のせめぎあいの中で、当時台頭してきた性科学を包摂し、20世紀に入ってこれと共存する道を切り開いてきました。その過程において、科学と哲学および宗教の間でいかなるやり取りがあったのか、特に文学的感性が、心理学の論理の構築および発展にいかに寄与したかについて検証を行うことで、科学万能の時代といわれる現代における、感性に基づいたモラル再建の可能性について考えていきたいと思っています。

前原由喜夫

新しいことを勉強するのは大変です

本年度からグローバルCOE共同研究者（日本学術振興会特別研究員PD）として慶應義塾で勉強させていただくことになりました。これまで京都大学(教育学研究科）で心理学を勉強してきました。現在の研究の関心は、人間の目標志向行動を制御するクールな側面の認知能力と動機づけや感情といったホットな心の働きとの相互作用が、社会的場面における対人行動に及ぼす影響の脳内機序をfMRIを用いた研究によって解明するとともに、その知見を応用し、学校現場で問題行動を呈する児童生徒のための行動改善プログラムを考案することにあります。しかしながら、私は慶應義塾に来るまでfMRIを使った研究に携わることはおろか、fMRIを生で見たことすらありませんでした。現在猛勉強中であり、認知神経科学の難しさに凹んだり、奮起したり、また凹んだりしています。どうぞいろいろ教えてください。よろしくお願いいたします。

事務局だより

活動予定

■ **一般公開シンポジウム**
第4回京都大学・慶應義塾大学グローバルCOE共催シンポジウム
トランスナショナルな心・人・社会
開催日：2011年1月9日(日)
会　場：京都大学時計台記念館　国際交流ホール

■ **Roberto Casati先生講演会(仮題)**
開催日：2011年1月下旬
会　場：三田キャンパス(詳細未定)
講演者：Roberto Casati先生(フランス国立科学センター)

■ **2010年度若手研究成果報告会**
開催日：2011年2月8・9日
会　場：三田キャンパス東館6階G-SEC Lab
講演者：CARLS若手研究員(計28名)

■ **Richard Zach先生講演会(仮題)**
開催日：2011年2月下旬
会　場：三田キャンパス(予定)
講演者：Richard Zach先生(University of Calgary)

■ **Tobias Rosefeldt先生講演会(仮題)**
開催日：2011年3月3・7日
会　場：三田キャンパス東館6階G-SEC Lab, 4階セミナー室
講演者：Tobias Rosefeldt先生(Universität Konstanz)

新刊紹介

■ **カラスの自然史— 系統から遊び行動まで**
樋口広芳・黒沢令子編著

●本書の内容
当拠点、特別研究准教授の伊澤栄一が、「第12章ハシブトガラスの群れにおける個体間関係とその行動・認知メカニズム」にて、研究成果を発表しております。ぜひご覧ください。
北海道大学出版会ホームページ
(http://www.hup.gr.jp/)

編集後記　Newsletter14 号では、2010 年の夏休みから 10 月にかけての CARLS 関連のセミナー、講演会を中心とした活動の様子をお伝えします。記録的な猛暑となった今夏、CARLS では、拠点の成長と発展を示すような、活発な研究活動がなされました。本号で紹介した各班の活動を振り返り、改めて、CARLS の多様性とその多様性から生まれる可能性を再確認いたしました。GCOE 拠点としての有限の残り時間で、この拠点の強みを生かした多くの研究成果があがることを願っています。末筆ながら、お忙しい中、原稿を執筆頂いた協力者各位に、感謝申し上げます。　（四本裕子）

慶應義塾大学　論理と感性の先端的教育研究拠点
Centre for Advanced Research on Logic and Sensibility
Newsletter 2010. December. No. 14

発行日　2010 年 12 月 24 日
代表者　渡辺 茂
〒 108-0073　東京都港区三田 3-1-7　三田東宝ビル 7F・8F
TEL：03-5427-1156
FAX：03-5427-1209
keiocarls@info.keio.ac.jp
http://www.carls.keio.ac.jp/